

社会資源の活用に向けた 関係機関との連携に関する事例

～ 社会資源の活用により、家族と一緒に
在宅生活を継続するための支援について ～

事例概要

- ・若年性認知症である59歳男性（Yさん）
- ・妻と高校3年生の長男との3人暮らし（長女は近隣の市で一人暮らし）
- ・本人の希望「家族と一緒にが一番安心。妻と長男と自宅で暮らしたい」という希望を尊重し支援したいと考えている
- ・家族 > 認知症が進行し介護に悩んでいる
- ・地域の社会資源を活用し自宅での生活を続けることができた（できている）
- ・介護支援専門員が担当して4か月後の場面を設定

3

ねらい！

- ・事例をもとに自身のケアマネジメントを振り返り、**複数の対応策を検討できるよ**
うに、必要な知識・技術を修得する

2

POINT

- ・ **想いに耳を傾ける**、家族の想いも尊重（介護力なども）
- ・ 経済面、生活歴、長男や長女との関係、地域交流、趣味
- ・ 認知症の理解度（家族・地域）、介護方法、今後の予測（症状）
- ・ 主治医の見解から留意する点
- ・ 地域で共有できること（場の設定）、家族以外のキーマン、環境や関係性
- ・ **より良い生活に向け構成するチーム、介護保険サービス以外のサポート**
- ・ **ストレングス**の視点、役割（父親）
- ・ 優先順位、世帯支援

4

演習)

無断複写・転載を禁ずる

◎事例から学べたことや事例に対して助言できることを記載する

◎事例のなかで導いた対応策以外のことも考えて記載する

- ・ インテーク～主治医意見書（個人ワーク10分 ⇒ 解説）
- ・ 課題整理総括表～サービス担当者会議（個人ワーク7分 ⇒ 解説）
- ・ 居宅サービス計画第1表～評価表・モニタリング・支援経過
（個人ワーク10分 ⇒ 解説）
- ・ 事例とは別な対応策を考える（個人ワーク7分 ⇒ 解説）

5

演習)

無断複写・転載を禁ずる

◎事例から学べたことや事例に対して助言できることを記載する

◎事例のなかで導いた対応策以外のことも考えて記載する

- サービス活用の在り方を検証する
また、事例とは別の対応策を考える
- 個人で検証した、サービスの在り方をグループで共有する
個人で考えた事例とは、別の対応策をグループで共有する
- 自身の課題と今後の取り組みを可視化する
- 個人の課題や今後の取り組みをグループで共有する
- グループで共有した課題や今後の取り組みを発表する
（他のグループの発表を学ぶ）

6

演習)

無断複写・転載を禁ずる

★テキストの事例を読んで、**自身のケアマネジメントを振り返り、項目ごとにポイントを書き出してみましょう。**

★ポイントって何？

- ①本事例の中で、ご自身が作成しているプランと比べ参考になった点
- ②生活を支えるために活用されている社会資源や連携機関
- ③ご自身が、普段より気をつけている点(POINT)
- ③事例とは別の対応策とは？

➢ **本事例のなかで、もっと活用できる社会資源はないか**

(活用できそうな)

7

演習)

無断複写・転載を禁ずる

★自身の課題と今後の取り組みをあげ、グループで共有

- ①演習を通して見えてきた自分自身の課題をあげる
- ②演習を通して得た、学んでいく必要性や具体的な取り組みをまとめる
※個人の課題や今後の取り組みをグループで共有
- ③発表・まとめ

8

2